

18.11.2004

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 1 1 月 1 4 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 3 8 4 7 1 8
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 3 8 4 7 1 8]

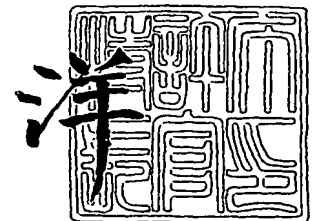
出 願 人 イーグル工業株式会社
Applicant(s):



2 0 0 5 年 1 月 6 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願
【整理番号】 0-1265
【提出日】 平成15年11月14日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 F04B 49/00
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都港区芝大門1丁目12番15号イーグル工業株式会社内
 【氏名】 上村 訓右
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都港区芝大門1丁目12番15号イーグル工業株式会社内
 【氏名】 岩 俊昭
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都港区芝大門1丁目12番15号イーグル工業株式会社内
 【氏名】 白井 克也
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都港区芝大門 1丁目12番15号イーグル工業株式会社内
 【氏名】 白藤 啓吾
【特許出願人】
 【識別番号】 000101879
 【氏名又は名称】 イーグル工業株式会社
 【代表者】 鶴 鉄二
【代理人】
 【識別番号】 100097180
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 前田 均
【代理人】
 【識別番号】 100099900
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 西出 眞吾
【選任した代理人】
 【識別番号】 100111419
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 大倉 宏一郎
【選任した代理人】
 【識別番号】 100117927
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 佐藤 美樹
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 043339
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 0103437

【書類名】特許請求の範囲

【請求項 1】

ソレノイド部を有する容量制御弁であって、前記ソレノイド部に有するチューブと、前記チューブに嵌合する外周面に摺動面と前記摺動面より小径の非接触周面を有すると共に、前記摺動面の軸方向長さが前記非接触周面の軸方向長さより短く形成された可動鉄心と、前記可動鉄心と結合して端部に連結面を有するソレノイドロッド部と、前記ソレノイドロッド部と遊嵌合する内部孔を有して前記可動鉄心と対向に配置された固定鉄芯と、前記ソレノイドロッド部の前記連結面と係合する接合部を有すると共に制御流体通孔が開閉される弁体を有する作動ロッドとを具備し、前記ソレノイドロッド部の前記連結面と前記作動ロッドの前記接合部とは一方が底面を有する凹状円錐面に形成されていると共に、他方が裁頭面を有する凸状円錐部に形成されていることを特徴とする容量制御弁。

【請求項 2】

前記ソレノイドロッド部の前記凹状円錐面の円錐角度 β が前記作動ロッドの前記凸状円錐部の円錐角度 α より 0.5° から 6° に大きく形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の容量制御弁。

【請求項 3】

前記ソレノイドロッド部が前記固定鉄芯の内部孔に接触する前に前記凹状円錐面と前記作動ロッドの凸状円錐部が接触するように構成されていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の容量制御弁。

【請求項 4】

前記可動鉄心の前記外周面の端部側周面に摺動面を有して摺動面の軸方向の長さが外周面の全長の $\frac{1}{4}$ を越えない長さに構成されていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 又は請求項 3 に記載の容量制御弁。

【請求項 5】

摺動面が断面を湾曲状に形成されていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 又は請求項 3 又は請求項 4 に記載の容量制御弁。

【書類名】明細書

【発明の名称】容量制御弁

【技術分野】

【0001】

本発明は、可動鉄心とソレノイドロッドと弁体とを摺動させ、制御室内の作動流体の容量又は圧力を弁体の開弁・閉弁により可変可能に制御する容量制御弁に関する。更に詳しくは、弁体に連結したソレノイドロッドと可動鉄芯との摺動抵抗を改善した容量制御弁に係わるものである。

【技術背景】

【0002】

本発明の関連技術として可変容量型圧縮機用の容量制御弁が知られている。この容量制御弁は作動ロッドに弁体が設けてあり、この弁体はソレノイド部のソレノイドロッドの作動により開弁・閉弁する。そして、このソレノイドロッドは可動鉄心に連結して一对の固定鉄心に設けられた孔に摺動自在に嵌合している（例えば、特許文献1参照）。

【0003】

【特許文献1】特開2001-342946公報（図1）

【0004】

図6の容量制御弁100は、特許文献1の図1に開示された容量制御弁と類似する。図6において、バルブハウジング105には軸方向に貫通する貫通孔が設けられている。この貫通孔には、吐出弁孔110Cと吸入弁孔110Dと第1案内孔110Eと第2案内孔110Fが設けられている。又、吐出弁孔110Cと吸入弁孔110Dとの間には弁室111が設けている。更に、吸入弁孔110Dに連通する第1吸入圧力通路110B1が設けられている。又、吐出弁孔110Cに連通する吐出圧力通路110Aが形成されている。そして、図示下部には貫通孔に連通する第2吸入圧力通路110B2が設けられている。

【0005】

バルブハウジング105は、第1バブルハウジング105Aと第2バブルハウジング105Bとの両端部が螺合して一体に形成されている。この第1バブルハウジング105Aの端部には、ばね室120が形成されている。このばね室120の開口一端には、ばね座部122が螺合されている。このばね座部122と作動ロッド101との間には、ばね121が配置されている。そして、ばね座部122のねじをねじ込んで、ばね121のばね力を調整する。このばね121は図示上方へ作動ロッド101を弾発に押圧している。

【0006】

バルブハウジング105の貫通孔には、作動ロッド101が配置されている。この作動ロッド101は、第1案内孔110Eと摺動する第1ストッパ101Eと、弁室111内に配置された弁体101Aと、第2ストッパ101Fと摺動自在に嵌合する第2案内孔110Fとが一体に形成されている。又、固定鉄心132のロッド用孔132Aと摺動自在に嵌合するソレノイドロッド101Cの端面が作動ロッド101の端面に平面状態で接合している。又、弁体101Aには両端面に弁面が形成されており、この弁体101Aの両弁面がバルブハウジング105の弁室111に設けた両弁座と互いに離接して吐出弁孔110Cと、吸入弁孔110Dとの弁開度を交互に開閉する。この弁体101Aが吐出弁孔110Cを開く方向へ移動することにより、吐出圧力通路110Aの吐出圧力流体がクランク室圧力通路110Gへ盛んに流入する。同時に、この弁体101Aが吸入弁孔110Dを閉じる方向へ移動することになるので、吸入圧力通路110B1から流入する吸入圧力流体がクランク室圧力通路110Gへ流出するのをしほることになる。

【0007】

この弁体101Aと一体の作動ロッド101は、第1ストッパ101Eが第1案内孔110Eと摺動する。又、第2ストッパ101Fが第2案内孔110Fと摺動する。更に、弁体101Aの弁面が弁座と離接する。この為に、第1ストッパ101Eと、第2ストッパ101Fと、弁体101Aとの各摺動面の摩擦・摩耗を防止するために、摺動面の摺動

抵抗を低減しなければならない。

【0008】

バルブハウジング105の他端にはソレノイド部130が設けられている。ソレノイド部130は可動鉄心131と固定鉄心132と電磁コイル135から構成されている。この電磁コイル135の磁励により可動鉄心131が作動してソレノイドロッド101Cを移動させる。このソレノイドロッド101Cは固定鉄心132のロッド用孔132Aに案内されて摺動する。又、吸入圧力通路110B1からの吸入圧力 P_s の流体の一部は、ソレノイドロッド101Cの外周面の間隙を通過して可動鉄心室136内に流入する。そして、可動鉄心室136内の圧力とばね室120内の圧力を均等にさせて両側に作用する力を釣り合わせる。

【0009】

この容量制御弁100は、ソレノイド部130に通電される電流の大きさによる作動力と、ばね121の反力とにより作動ロッド101を作動させて弁体101Aにより吐出弁孔110Cと吸入弁孔110Dを交互に開閉する。この吐出弁孔110Cと、吸入弁孔110Dの相反する弁体101Aの開閉度の制御により、吐出圧力 P_d の流体と吸入圧力 P_s の流体が、図示省略の圧縮機のクランク室に流入して斜板を制御する。

【0010】

この容量制御弁100の作動ロッド101は、両端側にある第1ストッパ101Eと第2ストッパ101Fの軸芯が同一に形成されて、バルブハウジング105の第1案内孔110Eと第2案内孔110Fとに嵌合して摺動する。更に、各弁面は作動ロッド101の軸芯に対して直角に形成されて各弁座と接面する。しかし、作動ロッド101は、長いために軸芯が曲がることがある。更に、作動ロッド101は小径でもある。又、可動鉄心131はチューブ134の内周面と嵌合して摺動する。更に、この可動鉄心131に結合しているソレノイドロッド101Cも固定鉄心132のロッド用孔132Aと摺動する。このために、作動時に、可動鉄心131と作動ロッド101の摺動抵抗が増大する。そして、ばね121により作動ロッド101を作動させるとき、更に、電流の強さによりソレノイド部130を作動させるとき、可動鉄心131及び作動ロッド101の作動する応答が、ばね121のばね力やソレノイド部130の電流の大きさに対応しなくなるおそれがある。そして、容量制御弁100の制御で圧縮機等の作動を制御する性能にも影響する。

【0011】

又、ソレノイドロッド101Cの平らな端面と、作動ロッド101の平らな端面を接合させるためには、ソレノイドロッド101Cの軸芯と作動ロッド101の軸芯を同一にして接合させなければならない。しかし、この部品組立の為の加工精度は加工コストを上昇させる。又、ソレノイドロッド101Cは、実際には、ソレノイドロッド101Cの外周面と固定鉄心132のロッド用孔132Aとの間隙から吸入圧力 P の流体を可動鉄心室136へ流入できるようにするために、この両部品間が間隙を設けた状態で摺動できるように形成されている。この為に、ソレノイドロッド101Cと作動ロッド101とを同一平面で接合させていても、ソレノイドロッド101Cは、ソレノイドロッド101Cの外周面とロッド用孔132Aとの間隙の寸法に応じて揺動しながら摺動を繰り返すと、ソレノイドロッド101Cの端面が不規則に摩耗する。特に、ソレノイドロッド101Cは、材質的に硬質材にできない問題があり、このソレノイドロッド101Cの端面が不具合に摩耗すると、弁体101Aによる制御流体の制御の精度も低下する。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0012】

本発明は、上述のような問題点に鑑み成されたものであって、その発明が解決しようとする課題は、容量制御弁において可動鉄心の摺動面の面積を小さくしてソレノイド部の電流の大きさに対する可動鉄心の作動時の摺動抵抗を小さくすることにある。又、ソレノイドロッドを固定鉄心に対し非接触状態にして摺動抵抗を低減すると共に、可動鉄心とソレノイドロッドとを固定鉄心に対して組立を容易にすることにある。更に、ソレノイドロッド

ドを固定鉄芯と遊嵌合にして可動鉄心とソレノイドロッドとの摺動のための嵌合精度を下げて加工を容易にし、全体の加工コストを低減することにある。又、作動中のソレノイドロッドの連結する端部の摩耗を防止すると共に、作動ロッドとの連結を強固にすることにある。

【課題を解決するための手段】

【0013】

本発明は、上述のような技術的課題を解決するために成されたものである。その課題を解決するための技術的手段は以下のように構成されている。

【0014】

請求項1に係わる発明の容量制御弁は、ソレノイド部を有する容量制御弁であって、ソレノイド部に有するチューブと、チューブと嵌合する外周面に摺動面と摺動面より小径の非接触周面を有すると共に、摺動面の軸方向長さが非接触周面の軸方向長さより短く形成された可動鉄心と、可動鉄心と結合して自由端部に連結面を有するソレノイドロッド部と、ソレノイドロッド部と遊嵌合する内部孔を有して可動鉄心と対向に配置された固定鉄芯と、ソレノイドロッド部の連結面と係合する接合部を有すると共に制御流体通孔が開閉される弁体を有する作動ロッドとを具備し、ソレノイドロッド部の連結面と作動ロッドの接合部との係合面が一方は底面を有する凹状円錐面に形成されていると共に、他方は裁頭面を有する凸状円錐部に形成されているものである。

【0015】

請求項2に係わる発明の容量制御弁は、ソレノイドロッド部の凹状円錐面の円錐角度 β が作動ロッドの凸状円錐部の円錐角度 α より 0.5° から 6° 大きく形成されているものである。

【0016】

請求項3に係わる発明の容量制御弁は、ソレノイドロッド部が固定鉄芯の内部孔に接触する前に前記凹状円錐面が前記凸状円錐部に接触するように構成されているものである。

【0017】

請求項4に係わる発明の容量制御弁は、可動鉄心の外周面の端部側周面に摺動面を有して摺動面の軸方向の長さが外周面の全長の4分の1を越えない長さに構成されているものである。

【0018】

請求項5に係わる発明の容量制御弁は、摺動面が断面を湾曲状に形成されているものである。

【発明の効果】

【0019】

この請求項1に係わる発明の容量制御弁では、ソレノイド部に設けたチューブの内周面と摺動する可動鉄心の外周面に於ける摺動面の長さが非接触周面の長さより短く形成されているので、摺動時に、可動鉄心とソレノイドロッド部との摺動面積を小さくして可動鉄心の摺動抵抗が小さくなる効果を奏する。更に、ソレノイドロッド部は固定鉄心の内部孔に非接触状態に構成されているから、ソレノイドロッド部の移動に伴う摺動抵抗が小さくできる効果を奏する。そして、ソレノイドロッド部と作動ロッドとの連結は、互いの底面と裁頭面が接触面積を大きくして接合しているため、底面と裁頭面との摩耗が防止できる。又、ソレノイドロッド部と作動ロッドとは、凹状円錐面と凸状円錐部とが連結しているから、可動鉄心に結合したソレノイドロッド部の自由端が作動ロッドにより揺動しないように保持される。この為、可動鉄心の摺動面のみの接触は、摺動時の摺動抵抗が低減できる効果を奏する。又、作動ロッドの凸状円錐部は、ソレノイドロッド部の凹状円錐面と連結しているから、作動時に、ソレノイドロッド部の自由端部を支持し、可動鉄心の動きにより摩擦抵抗が増大するのを防止する。この為、作動ロッドはスムーズに作動する効果を奏する。その結果、ソレノイド部の電流の大きさに対して弁体の開閉時の応答性が向上し、正確な制御が可能になる効果を奏する。

【0020】

この請求項 2 に係わる発明の容量制御弁では、作動ロッドの接合部に於ける凸状円錐部の円錐角度 α より凹状円錐面の円錐角度 β が 0.5° から 6° と大きく形成されている。この為に、ソレノイドロッド部の作動ロッドとの連結する連結面が作動ロッドの作動に対応して無理な方向へ押圧されるのを防止する。この為に、作動ロッドはスムーズに摺動するので、作動ロッドの摺動面の摩擦が防止できる効果を奏する。又、凹状連結面と凸状接合部とが両円錐面同士で接合できるので、可動鉄心の組立が極めて容易になる。

【0021】

この請求項 3 に係わる発明の容量制御弁では、凹状連結面と凸状接合部とが円錐面同士で接合していると共に、凹状連結面と凸状接合部との係合面がソレノイドロッド部を内部孔に接触摺動しないように規制されているから、摺動時に可動鉄心の摺動抵抗が極めて小さくできる効果を奏する。

【0022】

この請求項 4 に係わる発明の容量制御弁では、可動鉄心の外周面の端部側に摺動面が設けられていると共に、摺動面の軸方向長さが外周面の全長に対して $\frac{1}{4}$ を越えない範囲に形成されているから、可動鉄心の摺動抵抗が極めて小さくできる効果を奏する。特に、摺動面には作動流体に含むオイル等の液体が付着するが、摺動面の長さが外周面の全長に対して $\frac{1}{4}$ 以下に形成されていると、液体が付着しても直ぐに流出し、摺動抵抗が小さくできる効果を奏する。

【0023】

この請求項 5 に係わる発明の容量制御弁では、摺動面が断面を湾曲に形成しているから、摺動面が線接触に近くなるので、摺動抵抗が大きく低減できる効果を奏する。しかも、可動鉄心とソレノイドロッド部の全接触面は、線接触に近い摺動面のみで摺動接触すると共に、凹状連結面が自由に揺動できる連結構造となるから、可動鉄心の摺動抵抗が極めて小さくなり、可動鉄心はソレノイド部の電流の大きさに対応して正確に作動することが可能になる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0024】

以下、本発明に係わる実施の形態の容量制御弁を図面に基づいて詳述する。尚、以下に説明する各図面は、設計図を基にした正確な図面である。

【0025】

図 1 は、本発明に係わる実施の形態を示す容量制御弁である。図 1 に於いて、1 は容量制御弁である。容量制御弁 1 には、本体を成すバルブハウジング 10 を設ける。このバルブハウジング 10 は、内部に各部を設けた径の異なる貫通孔が形成されている。そして、バルブハウジング 10 は真鍮、アルミニウム、ステンレス等の金属、合成樹脂材等で製作する。

【0026】

バルブハウジング 10 には、貫通孔の一端に大きな穴を形成する。この穴に仕切調整部 24 が嵌着して内部に感圧室 17 を形成する。又、バルブハウジング 10 の他端の外周には、ソレノイド部 30 を結合させるための外周結合部を形成する。又、仕切調整部 24 は、バルブハウジング 10 に対し一定位置に嵌着しているが、ねじ込み可能にすれば、感圧装置 20 のばね力に合わせて軸方向へ移動調整できるようになる。このようにすれば、感圧装置 20 のばね力の設定値を変更することが可能になる。

【0027】

バルブハウジング 10 の貫通孔の各部には、感圧室 17 に連通して感圧室 17 の径より小径のスライド孔 12 を連設する。更に、貫通孔にはスライド孔 12 に連通する制御流体通孔 14 を設ける。又、この貫通孔の制御流体通孔 14 に連通して制御流体通孔 14 より大径の弁室 4 を形成する。更に、貫通孔の他端には弁室 4 に連通して固定鉄芯 31 のフランジ部 31C と嵌合可能で弁室 4 より大径の取付孔 19 を 2 段差に連設する。更に、弁室 4 と制御流体通孔 14 との境には平面の弁座 13 を設ける。この弁座 13 は制御流体通孔 14 に向かってテーパ面に形成しても良い。そして、平面の弁部面 3A の角部と接触幅

を小さく接触するように構成することもできる。

【0028】

バルブハウジング10には、弁室4に連通する第1連通路18を形成する。この第1連通路18は、制御圧力 P_d の流体、例えば、可変容量型圧縮機では吐出圧力（制御圧力） P_d の流体通路に連通可能にする。この第1連通路18は、バルブハウジング10の周面に4等配に形成している。この第1連通路18は、4等配とは限らず、周面に2等配、3等配、5等配等の必要数を設けることができる。

【0029】

更に、制御流体通孔14には、流入した制御圧力 P_d の流体を図示省略の制御室（図5のクランク室55）へ流出させる第2連通路16を形成する。尚、第2連通路16もバルブハウジング10の周面に沿って4等配に設けられているが、必要に応じて2等配、3等配、5等配の個所に外周面から制御流体通孔14へ貫通状態に設けることができる。又、バルブハウジング10には、感圧室17に連通する第3連通路15を形成する。この第3連通路15を通して外部（圧縮機）の吸入圧力 P_s の流体を感圧室17へ導入する。尚、吸入圧力 P_s の流体にはオイル等の液体を含む場合がある。更に又、バルブハウジング10の外周面は、外周面にOリング用の取付溝を2カ所に設ける。そして、各取付溝には、バルブハウジング10を嵌合する図示省略（図5に示す）のケーシングの装着孔との間をシールするOリングが取り付けられる。

【0030】

感圧室17内には感圧装置20を設けている。この感圧装置20は、金属製の弾発可能なペローズ21を設けている。又、ペローズ21の他端は取付板に一体に結合する。更に、ペローズ21の内部には、図示省略の弾発可能な第1ばねを配置すると共に、室内は真空状態にする。このペローズ21はリン青銅等により製作されているが、そのばね定数は所定の値に設計されている。又、ペローズ21のばね力が不十分の場合には、更に、他のばねを設けてばね力により弾発に押圧する。

【0031】

この感圧装置20は、感圧室17内で感圧装置20全体に有する伸び力と吸入圧力 P_s で圧縮される力との相関関係で伸縮するように設計されている。そして、この圧縮力は、感圧装置20の有効受圧面積に対し、吸入圧力 P_s が作用する力である。バルブハウジング10の一端の取付孔19の大径部は、固定鉄芯31のフランジ部31Cを取り付けることができるように形成する。又、取付部19の小径部には軸受11を嵌着する。この軸受11には案内孔11Aが設けられている。この案内孔11Aに作動ロッド2が移動自在に嵌合して偏芯せずに移動できるように案内する。このバルブハウジング10の連通孔の各摺動面には、図示省略のシール膜を設けることもできる。このシール膜は低摩擦係数の材料により形成する。例えば、このシール膜としては、摺動面にフッ素樹脂膜を付着させる。このシート膜により作動ロッド2全体の作動の応答性を良好にすることが可能である。

【0032】

感圧装置20の一端の取付板の凹部には、作動ロッド2の端部が連結する。作動ロッド2には、スライド孔12と摺動する感圧ロッド部2Bを設ける。又、作動ロッド2には、感圧ロッド部2Bに一体の連結ロッド部2Cを設ける。この連結ロッド部2Cは制御流体通孔14の径より小径に形成されており、弁体3が開弁したときに、制御流体が制御流体通孔14と連結ロッド部2Cとの間から流通できるように形成する。更に、作動ロッド2は、連結ロッド部2Cの端部に弁体3を設ける。この弁体3には、弁座13と開閉する弁部面3Aを設ける。又、弁体3には弁体ロッド部2Aを設ける。この弁体ロッド部2Aの直径は制御流体通孔14の直径より僅かに大径に形成する。弁体ロッド部2Aの端部には、接合部2Eを設ける。この接合部2Eは、先端に裁頭面2E1を設けた凸状円錐部2E2に形成する。又、裁頭面2E1は、先端の尖った部分がなく、連結面2D1との接合面積を増大する形状であれば、例えば、半球面等の他の形状も含む。この弁体ロッド部2Aの接合部2Eは、ソレノイドロッド部2Dに設けられた連結面2D1と結合して連結できるように成されている。この作動ロッド2はステンレス鋼で製作されている。又、その他の

非磁性材で製作してもよい。

【0033】

ソレノイドロッド部 2 D は丸棒状に形成されており、ソレノイドロッド部 2 D の一端部に作動ロッド 2 の接合部 2 E と係合する連結面 2 D 1 を設ける。この連結面 2 D 1 は、凹状円錐面 2 D 1 B の底に底面 2 D 1 A を設けた構成である。又、凹状円錐面 2 D 1 B の底面 2 D 1 A は、作動ロッド 2 に於ける凸状円錐部 2 E 2 の裁頭面 2 E 1 と平面（又は球面等）で接合できるように形成する。この底面 2 D 1 A は接触面積を大きく形成されているので、同じ接合面の裁頭面 2 E 1 と連結できるから作動中に摩耗を少なくすることができ。一方、連結面 2 D 1 と反対の端部の結合部 2 F は、可動鉄心の嵌着孔に結合している。このソレノイドロッド部 2 D はステンレス鋼で製作している。

【0034】

可動鉄心 3 2 は、固定鉄芯 3 1 側を円錐面に形成する。又、可動鉄心 3 2 の固定鉄芯 3 1 側と反対側は凹部に形成する。更に、可動鉄心 3 2 の外周面 3 2 A は、摺動面 3 2 A 1 と非接触周面 3 2 A 2 とに形成する。この非接触周面 3 2 A 2 の外径 D_2 （図 3 を参照）は、摺動面 3 2 A 1 の外径 D_1 より $0.1\text{mm} \sim 1\text{mm}$ 位小径に形成する。又、摺動面 3 2 A 1 の軸方向長さ L_2 は非接触周面 3 2 A 2 の軸方向長さ（ $L_1 - L_2$ ）より短く形成する。特に、摺動面 3 2 A 1 の軸方向長さ L_2 は、外周面 3 2 A の軸方向長さ L_1 より $1/4$ を越えない範囲内に形成するとよい。そして、この可動鉄心 3 2 の摺動面 3 2 A 1 は有底円筒状のチューブ 3 3 の内周面と移動自在に嵌合している。又、非接触周面 3 2 A 2 はチューブ 3 3 の内周面に接触しない外径に形成する。可動鉄心 3 2 の端部に設けられた凹部には第 2 ばね 3 6 A を配置する。この第 2 ばね 3 6 A は、常に可動鉄心 3 2 を弁体 3 側へ弾発に押圧している。

【0035】

チューブ 3 3 に嵌着して可動鉄心 3 2 と対向する固定鉄芯 3 1 は、一端面を可動鉄心 3 2 の円錐面と係合する円錐状凹部に形成する。又、固定鉄芯 3 1 の弁体 3 側には、電磁コイル 3 4 の電磁回路の位置にフランジ部 3 1 C を設ける。そして、固定鉄芯 3 1 の内部は、ソレノイドロッド部 2 D の外径寸法より大径に形成された非接触の内部孔 3 1 B に形成する。この作動ロッド 2 の接合部 2 E とソレノイドロッド部 2 D の連結面 2 D 1 とは、弁体ロッド部 2 A が案内孔 1 1 A を突き抜けて内部室 1 9 A 内で結合する。この為、弁体ロッド部 2 A の接合部 2 E の全外面に作動流体圧力が作用できるようになる。

【0036】

又、作動ロッド 2 の接合部 2 E は、凸状円錐部 2 E 2 に形成されている。この凸状円錐部 2 E 2 の先端は、裁頭面 2 E 1 に形成する。この裁頭面 2 E 1 は、接合平面に形成する。尚、裁頭面 2 E 1 は半球面状に形成して半球面状の底面 2 D 1 A と接合するようにして。一方、ソレノイドロッド部 2 D の連結面 2 D 1 は、端面に凹状円錐面 2 D 1 B を形成する。この凹状円錐面 2 D 1 B の底面 2 D 1 A は、連結平面に形成する。この底面 2 D 1 A は、点接触ではなく、裁頭面 2 E 1 と大きな面積の平面同士で接合するから、作動時の摩耗が少なく、耐久能力を有する。裁頭面 2 E 1 の直径 A（図 2 参照）に対して底面 2 D 1 A の直径 B（図 2 参照）は 0.1mm から 0.5mm の範囲に大きくすると良い。この底面 2 D 1 A と裁頭面 2 E 1 は摩耗を防止するために、焼き入れして硬度を高くしても良い。

【0037】

チューブ 3 3 の外周には電磁コイル 3 4 が設けられている。ソレノイド部 3 0 は、この電磁コイル 3 4 と可動鉄心 3 2 と固定鉄芯 3 1 が主要な構成である。ソレノイド部 3 0 は、電磁コイル 3 4 に流れる電流の大きさにより可動鉄心 3 2 を作動させて弁体 3 の開度を制御する。このときに、感圧装置 2 0 に吸入圧力 P_s も同時に作用して弁体 3 の開閉度を制御する。この容量制御弁 1 は、電流の大きさによりソレノイド部 3 0 を作動させると共に、吸入圧力 P_s により感圧装置 2 0 を作動させて弁体 3 を弁座 1 3 から開閉し、吐出圧力 P_d の流量を調整して制御室内へ導入し、制御室内の圧力を制御する。

【0038】

図2は、本発明に係わる作動ロッド2とソレノイドロッド部2Dとを連結した構造の第2実施の態様である。図2において、作動ロッド2は接合部2Eがソレノイドロッド部2Dの接合面2D1に連結して作動する。この作動ロッド2の接合部2Eは、弁体ロッド部2Aの先端に裁頭面2E1を設けた凸状円錐部2E2に形成する。この裁頭面2E1は直径Aの円形面に形成された接合平面である。又、ソレノイドロッド部2Dの連結面2D1は、端面に凹状円錐面2D1Bを形成する。この凹状円錐面2D1Bの底面2D1Aは直径Bの円形面に形成された連結平面である。又、凹状円錐面2D1Bの深さHは、例えば、底面2D1Aの直径Bと略同じ寸法に形成する。更に好ましくは、深さHは底面2D1Aの直径Bより少し小さくすると良い。この底面2D1Aの直径Bは、裁頭面2E1の直径Aより0.1mmから0.4mmくらい大きい寸法にして余裕をもたせると良い。この深さHは、作動ロッド2とソレノイドロッド部2Dとの連結力により決められるが、底面2D1Aの直径Bより小さくすると良い。又、凹状円錐面2D1Bの円錐角度 β は、図1とは相違し、凸状円錐部2E2の円錐角度 α より0.5から3°位大きく形成する。

【0039】

弁体ロッド部2Aの摺動面2A1は軸受11の案内孔11Aと摺動する。又、感圧ロッド部2Bのスライド面2B1がスライド孔12と摺動する。しかし、作動ロッド2の接合部2Eがソレノイドロッド部2Dの連結面2D1と遊合した連結は、作動ロッド2の摺動を遊合により規制しないから、摺動面2A1とスライド面2B1の摩擦による摩擦を防止する。更に又、作動ロッド2の作動時の摩擦抵抗を低減できる。この作動ロッド2はステンレス鋼である。ステンレス鋼製の丸棒を加工して図2に示すような形状に加工する。

【0040】

図3は、本発明に係わる第3実施の態様の可動鉄心32とソレノイドロッド部2Dを示す。可動鉄心32は、固定鉄芯31側が円錐面に形成されている。尚、この円錐面は、円錐面と限らず、同様な機能を有する種々の面に設計することができる。又、可動鉄心32の固定鉄芯31側と反対側は凹部に形成する。更に、可動鉄心32の外周面32Aは、摺動面32A1と非接触周面32A2とに形成する。この非接触周面32A2の外径D2は摺動面32A1の外径D1より0.1mm～1.2mm位小径に形成する。又、摺動面32A1は、断面状態で湾曲に形成する。摺動面32A1の軸方向長さL2は、外周面32Aの軸方向長さL1に対し約1/10に形成されているが、L2対L1の関係は、1/4の長さを越えない範囲内に形成するとよい。

【0041】

そして、この可動鉄心32の摺動面32A1は有底円筒状のチューブ33の内周面に移動自在に嵌合する。又、非接触周面32A2はチューブ33の内周面に接触しない外径寸法に形成する。可動鉄心32の背面の一端部に設けられた凹部には、第2ばね36Aを配置する。この第2ばね36Aは、常に可動鉄心32を弁体3側へ弾発に押圧する。又、ソレノイドロッド部2Dの自由端部の連結面2D1は、凹状円錐面2D1Bと半球状の底面2D1Aとを連面した形状である。この底面2D1Aの直径Bより凹状円錐面2D1Bの深さHを小さくしている。又、作動ロッド2の接合部2Eは、凸状円錐部2E2と半球状の裁頭面2E1とを連面した形状である。この裁頭面2E1の直径Aは略底面2D1Aの直径Bと略同一である。尚、裁頭面2E1の直径Aは底面2D1Aの直径Bよりやや小さくしても良い。つまり、凸状円錐部2E2の円錐角度 α が凹状円錐面2D1Bの円錐角度 β より小さく形成されているので、底面2D1Aに対して裁頭面2E1が回転する余裕があれば良いからである。その他の構成は図1と略同様である。

【0042】

図4は本発明に係わる第4実施の態様の容量制御弁1の可動鉄心32側を示すものである。この可動鉄心32の摺動面32A1は、長さL2の円周面に形成する。そして、摺動面32A1の両端はなめらかに他の面へ連面している。又、摺動面32A1の長さL2は、外周面32Aの長さL1に対して約1/5に形成すると良い。更に、ソレノイドロッド部2Dの外周面の寸法は、固定鉄芯31の内部孔31Bの寸法に対して隙間を有する小径に形成する。この為に、ソレノイドロッド部2Dは摺動中に内部孔31Bに接触しないよ

【 0 0 4 4 】

【 0 0 4 5 】

【 0 0 4 6 】

【0047】

出証特2004-3119756

トロークを制御することが可能になる。

【産業上の利用可能性】

【0048】

以上のように、本発明の容量制御弁は、空気機械、圧縮機等の制御室の圧力制御に用いて有用である。特に、容量制御弁の作動ロッドの作動時の応答性に優れると共に、作動ロッドとソレノイドロッド部とを連結した連結構造に於ける接合面の摩耗を防止できる有用な容量制御弁である。

【図面の簡単な説明】

【0049】

【図1】本発明の第1実施の態様に係る容量制御弁の断面図である。

【0050】

【図2】本発明の第2実施の態様に係るソレノイドロッド部と作動ロッドとの連結構造を示す正面図である。

【0051】

【図3】本発明の第3実施の態様に係る可動鉄心とソレノイドロッド部の断面図である。

【0052】

【図4】本発明の第4実施の態様に係るチューブと可動鉄心と固定鉄芯の断面図である。

【0053】

【図5】本発明に係る可変容量型圧縮機に容量制御弁を取り付けた状態を示す断面図である。

【0054】

【図6】本発明に類似する関連技術の可変容量型圧縮機用制御弁の断面図である。

【符号の説明】

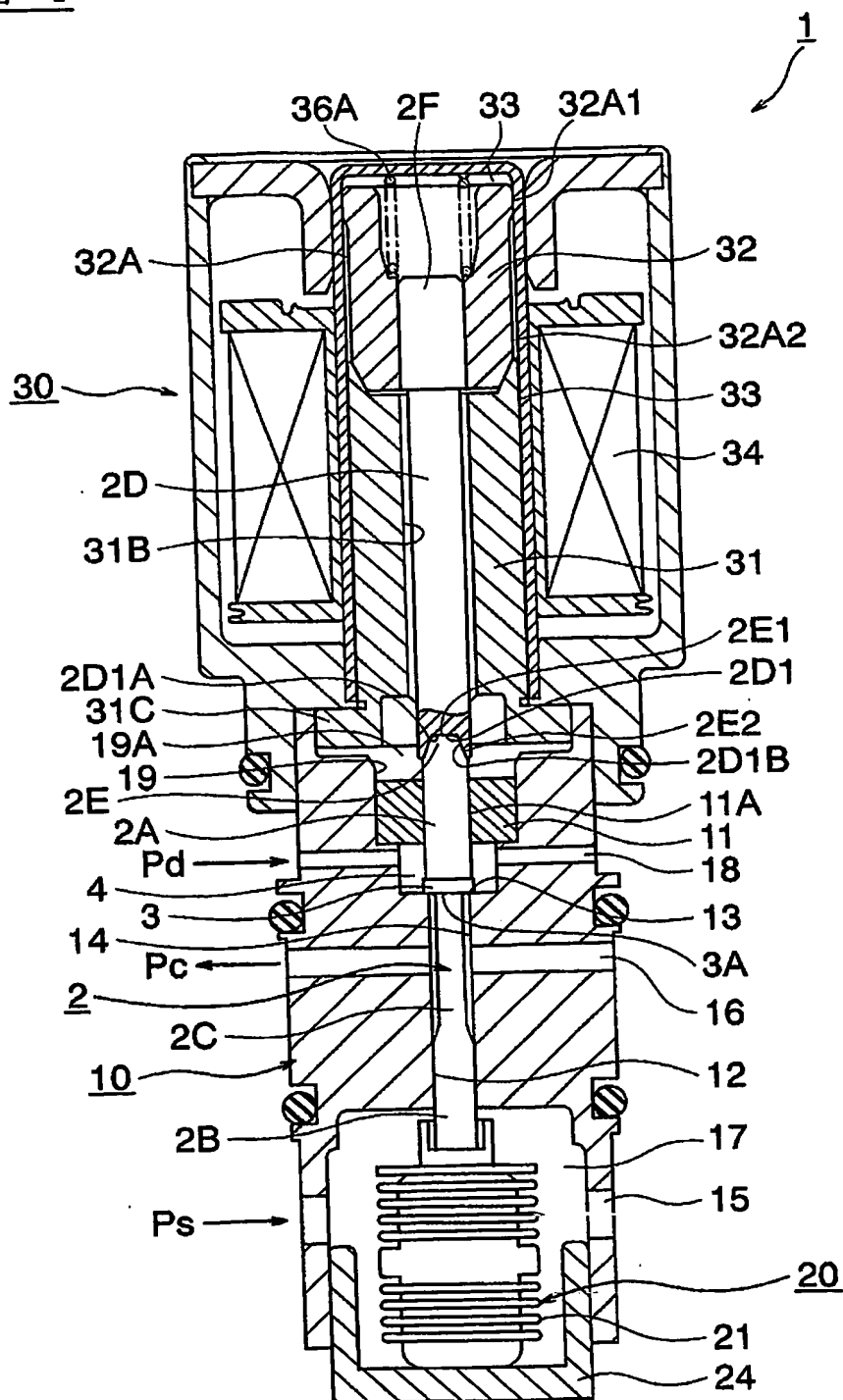
【0055】

- 1 容量制御弁
- 2 作動ロッド
- 2A 弁体ロッド部
- 2A1 摺動面
- 2B 感圧ロッド部
- 2B1 スライド面
- 2C 連結ロッド部
- 2D ソレノイドロッド部
- 2D1 連結面
- 2D1A 底面
- 2D1B 凹状円錐面
- 2E 接合部
- 2E1 裁頭面
- 2E2 凹状円錐面
- 2F 結合部
- 3 弁体
- 3A 弁部面
- 4 弁室
- 10 バブルハウジング
- 11 軸受
- 11A 案内孔
- 12 スライド孔
- 13 弁座
- 14 制御流体通孔

- 15 第3連通路
- 16 第2連通路
- 17 感圧室
- 17A 導入孔
- 18 第1連通路
- 19 取付孔
- 20 感圧装置
- 21 ベローズ
- 24 仕切調整部
- 30 ソレノイド部
- 31 固定鉄心
- 31B 内部孔
- 31C フランジ部
- 32 可動鉄心
- 33 チューブ
- 34 電磁コイル
- 36A 第2ばね
- α 接合部の円錐角度
- β 連結面の円錐角度
- P_s 吸入圧力
- P_d 吐出圧力(制御圧力)
- P_c 制御室圧力(クランク室圧力)

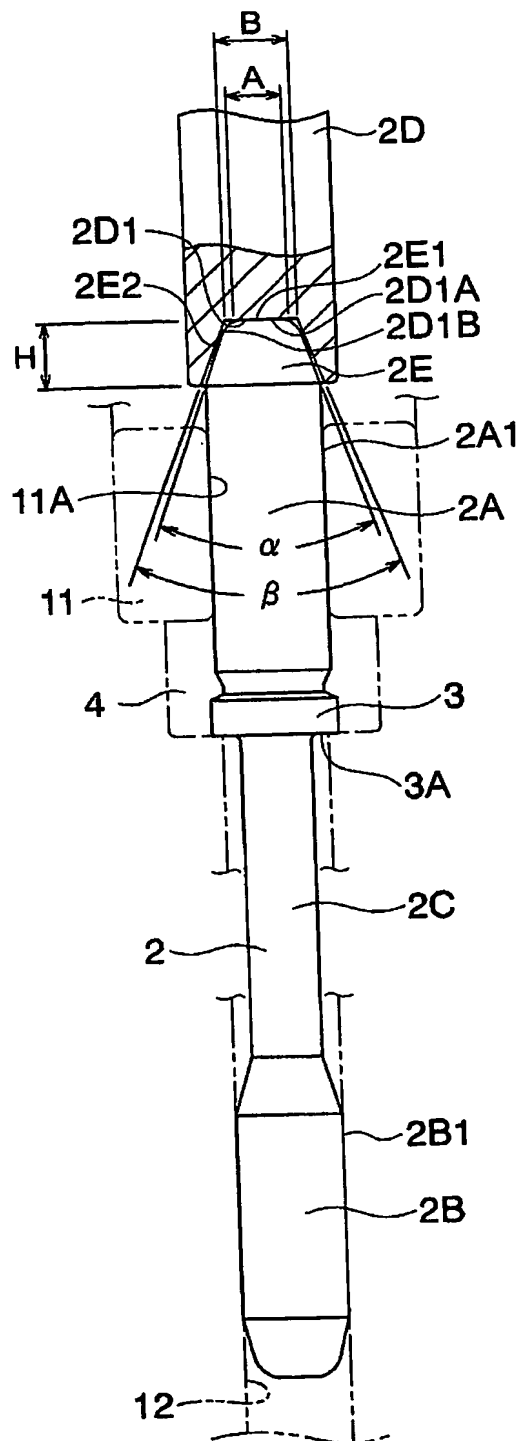
【書類名】 図面
【図 1】

図 1



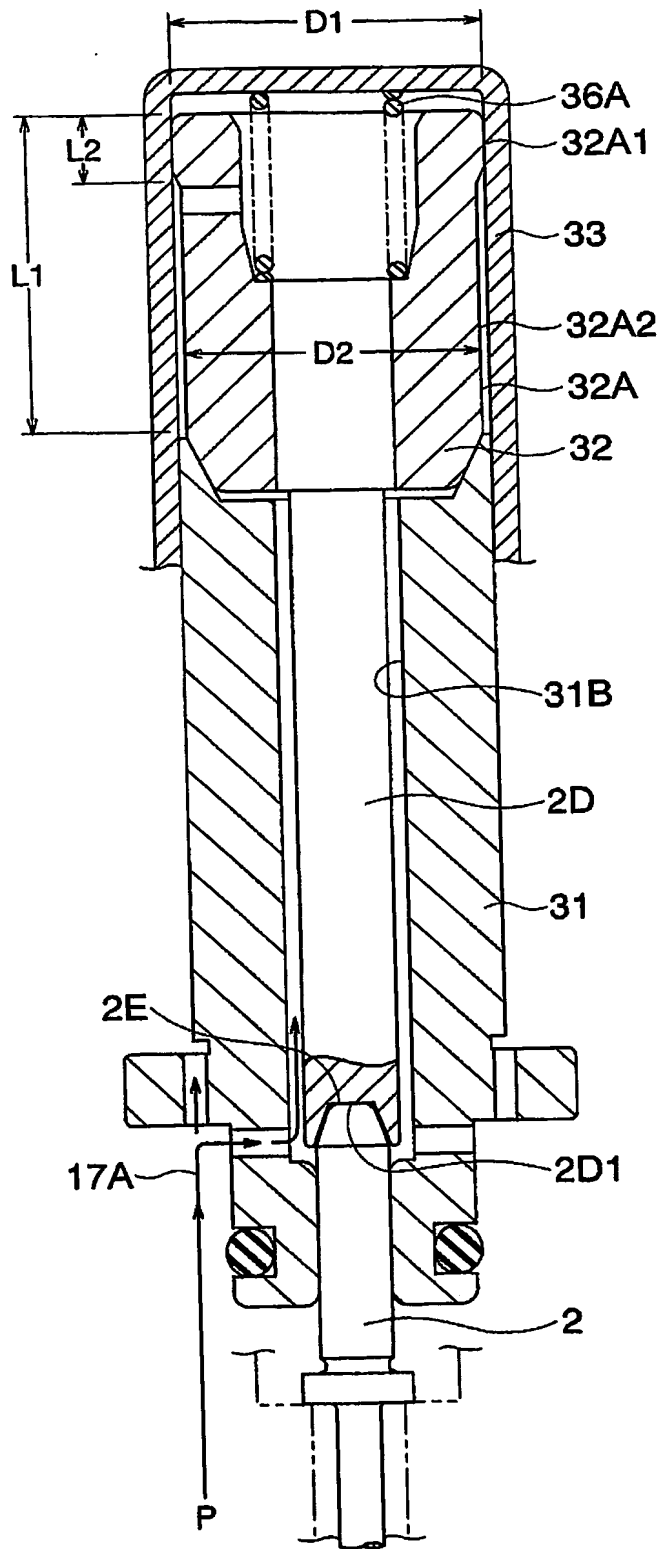
【図 2】

図 2



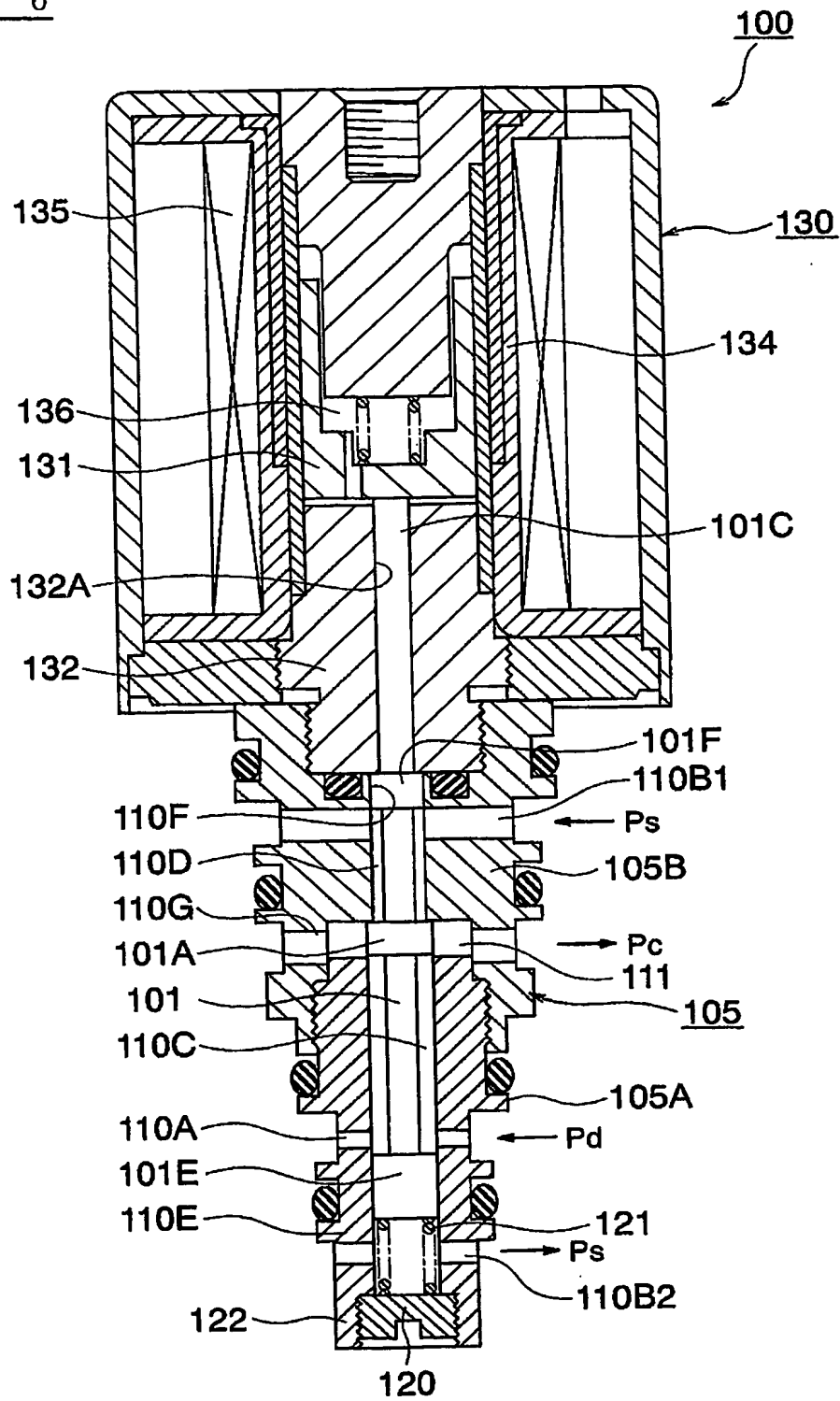
【図 4】

図 4



【図 6】

図 6



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 容量制御弁のソレノイドロッド部と作動ロッドとの連結部の摩耗を防止すると共に、可動鉄心と作動ロッドとの摩擦係数を低減して容量制御弁の制御流体の制御精度を向上することにある。

【解決手段】 容量制御弁(1)は、ソレノイド部(30)に有するチューブ(33)と、チューブ(33)に嵌合する外周面(32A)に摺動面(32A1)と摺動面(32A1)より小径の非接触周面(32A2)を有すると共に、摺動面(32A1)の軸方向長さ(L2)が非接触周面(32A2)の軸方向長さ(L1-L2)より短く形成された可動鉄心と、可動鉄心と結合して端部に連結面(2D1)を有するソレノイドロッド部(2D)と、ソレノイドロッド部(2D)の連結面(2D1)と係合する接合部(2E)を有すると共に、制御流体通孔(14)が開閉される弁体(3)を有する作動ロッド(2)とを具備し、ソレノイドロッド部(2D)の連結面(2D1)と作動ロッド(2)の接合部(2E)とは一方が底面(2D1A)を有する凹状円錐面(2D1B)に形成されていると共に、他方が裁頭面(2E1)を有する凸状円錐部(2E2)に形成されているものである。

【選択図】

図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-384718
受付番号	50301885787
書類名	特許願
担当官	福田 政美 7669
作成日	平成 15 年 11 月 20 日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】

000101879

【住所又は居所】

東京都港区芝大門 1-12-15 正和ビル 7 階

【氏名又は名称】

イーグル工業株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】

100097180

【住所又は居所】

東京都千代田区猿楽町 2 丁目 1 番 1 号 桐山ビル

前田・西出国際特許事務所

【氏名又は名称】

前田 均

【代理人】

【識別番号】

100099900

【住所又は居所】

東京都千代田区猿楽町 2 丁目 1 番 1 号 桐山ビル

前田・西出国際特許事務所

【氏名又は名称】

西出 眞吾

【選任した代理人】

【識別番号】

100111419

【住所又は居所】

東京都千代田区猿楽町 2 丁目 1 番 1 号 桐山ビル

前田・西出国際特許事務所

【氏名又は名称】

大倉 宏一郎

【選任した代理人】

【識別番号】

100117927

【住所又は居所】

東京都千代田区猿楽町 2 丁目 1 番 1 号 桐山ビル

【氏名又は名称】

佐藤 美樹

特願 2003-384718

出願人履歴情報

識別番号

[000101879]

1. 変更年月日

1990年 8月22日

[変更理由]

新規登録

住所

東京都港区芝大門1-12-15 正和ビル7階

氏名

イーグル工業株式会社

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/016881

International filing date: 12 November 2004 (12.11.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2003-384718
Filing date: 14 November 2003 (14.11.2003)

Date of receipt at the International Bureau: 20 January 2005 (20.01.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record.

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.